備前市事務事業評価シート

（平成21年度事業）

事業の概要

事業開始年度			平成３年度～	根拠法令・例規等	備前市子ども情報ｾﾝﾀｰ設置要綱 備前市子ども読書活動推進計画
総合計画	大項目	基本目標	03 地域文化と人が輝くまちづくり	問合先	担当課（室） 生涯学習課生涯学習係
	中項目	基本施策	02 生きがいのあるまちづくり		職・氏名 係長　波多野　靖成
	小項目	施　策	03 成人教育		電　話 ０８６９－６４－１８４１
事務事業名			01 生涯学習推進事業	このシート作成に要した時間	6.0 時間

事業の目的

対　象 （誰・何に対して）	自己実現を図るため、生涯学習全般に興味関心のある市民及び家庭教育の充実を図る為の学習意欲のある保護者や関係諸団体等。
目　的 （何のために）	いつでも、どこでも、誰でもが学びながら、社会の中で自己現実を図っていくため、学習機会の提供を行い、生きがいのある明るく充実した地域社会の実現を目指す。
事業の意図する成果 （どのような状態にしたいのか）	市民一人ひとりが生涯にわたる学習活動を通じて自己の人格を磨くとともに、学びの成果を生かして地域課題の解決や地域の子育てに関する取組に参加する等、個人の豊かな学びと「地域力」の形成が循環する生涯学習社会の構築を図る。

事業の実績

目的を達成するため実施した事業

細事業名	事業の説明	優先度
子ども情報センター運営事業	子どもの地域における体験活動・奉仕活動の機会や家庭教育の支援等に関する情報を子どもたちが容易に入手できるよう情報誌を発行し、体験活動・奉仕活動への参加等の支援を行うことを目的にした事業。	◎
公用車管理事業	公用車の維持・管理に関する業務。	△
生涯学習課管理運営事業	生涯学習を推進すべく情報提供や調査活動等の業務。	○
子ども読書活動推進地域フォーラム開催事業	赤磐市、瀬戸内市、備前市及び和気町において活動する子どもの読書活動関係者が合同で研修会や、交流会などを行なうことにより、それぞれの実践力の向上やネットワークの拡大・充実に寄与し、子どもの読書活動の重要性を啓発し、読書環境の一層の充実を目指すことを目的とした事業。	○
子ども読書計画策定事業	子どもの読書活動の推進に関する法律(平成13年法律第154号)第9条第2項の規定に基づく本市の子ども読書活動推進に関する基本的な方針(「備前市子ども読書活動推進計画」)の策定を目的とした事業。	◎

決算額

事業費等		単位	平成19年度実績		平成20年度実績		平成21年度実績	
事業費	直接事業費	千円		4,529		1,290		915
	必要人員　人件費		1.42人	11,662	0.28人	2,125	0.83人	6,325
	事業費計			16,191		3,415		7,240
財源	国県支出金	千円						
	受益者負担							
	繰入金							
	市債							
	その他（　）							
	一般財源			16,191		3,415		7,240
受益者負担比率		%		－		－		－

結果指標

結果指標名		単位	平成19年度実績	平成20年度実績	平成21年度実績
図書館イベント参加者数		説明	ときめきナビに掲載した図書館イベントの参加者の延べ人数の推移		
	結果指標量	事業	15,164	5,268	8,041
	対前年比	%	－	34.7%	152.6%
	活動コスト	円	2,295,500	1,865,980	2,617,967
	単位当たりコスト		151	354	326

事業の成果

成果指標名	年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度目標値
図書館イベント参加者数	目標値（A）	10000	10000	10000	10000
	実績値（B）	15164	5268	8041	到達目標値
	達成率（B/A）	151.64%	52.68%	80.41%	9000

成果指標設定の考え方・式や説明

図書館イベントの参加者の延べ人数の推移。このことを指標とし評価することで、子どもにとって読みやすく、参加してみたいという意欲が高まるようなときめきナビの紙面の工夫に役立てる。

事務事業の評価

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性の評価を行って下さい

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい

妥当性の評価

市の関与の妥当性必要性

- ☑ 市が実施するよう法令で義務づけられている
- ☐ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
- ☐ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
- ☐ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- ☐ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- ☑ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
- ☐ 事業開始当初の目的から変化してきている
- ☐ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている
- ☑ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある

市民ニーズ

- ☐ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価 <A～E>: **B**

効率性の評価

コスト手段

- ☑ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
- ☐ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
- ☐ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
- ☑ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- ☐ 受益者負担率は適正である
- ☐ 受益者負担率を見直す余地がある
- ☐ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
- ☐ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
- ☐ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価 <A～E>: **C**

有効性の評価

目的達成度市民参画度

- ☑ 成果指標の設定は適切である
- ☐ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
- ☑ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
- ☐ 成果指標達成率は80%未満となっている
- ☐ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない
- ☐ 法定事務 ・ 内部管理事務　であり成果は求めにくい
- ☐ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
- ☑ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価 <A～E>: **B**

進行年度（H22年度）の改革改善内容

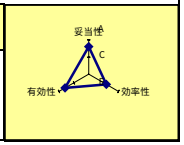
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
	○						

説明：平成22年4月から施行された「備前市子ども読書活動推進計画」に則り、人材養成講座事業等を活用して読書ボランティアを養成する機会を設ける。また、図書館との連携・協働を促進する。ときめきナビの紙面づくりでは、子ども情報センター設立時の原点に戻り、「子どものための情報紙」となるような紙面を見直し、改良を行う。

総合評価

「子ども読書活動推進地域フォーラム開催事業」や「子ども読書活動推進計画策定事業」の実施を通して、子どもの読書活動を推進していく上で欠かせない関係者のネットワークの基礎が築かれた。また、市内の現状と今後の方向性を共通理解することができた。今後は、このネットワークを生かし、計画をどう進めていくかについて検討していく。

評価区分 <A～E>: **B**



平成23年度の方向性 及び 取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
			○				

取組目標：学校園における子どもの読書環境を把握し、計画に則った取組がなされるような支援策を検討する。